



No.96
2018.12.18

SEA NEWS



- ① ... 浦和南高校が17年振りの栄冠に輝く ～平成30年度第97回全国高校サッカー選手権大会 埼玉県大会 江南南、11年振りの優勝 ～JFA第42回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会
- ② ... 座談会 少年男子、福井国体で見事優勝！～大野恭平監督とその過程を振り返る～
- ③ ... 座談会 続き (全ては選手たちのために)
- ④ ... 座談会 続き (このチームで優勝したかった)
- ⑤ ... 大会記録●県内大会 1種・2種・3種
- ⑥ ... 大会記録●県内大会 4種・女子・フットサル ●県外大会 1種
- ⑦ ... 大会記録●県外大会 1種・2種・3種・女子
- ⑧ ... 大会記録●県外大会 女子・シニア インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

浦和南高校が17年振りの栄冠に輝く ～平成30年度第97回全国高校サッカー選手権大会 埼玉県大会

11月18日、埼玉スタジアムで開催された「平成30年度第97回全国高校サッカー選手権大会 埼玉県大会」決勝戦において浦和南高校が17年振りに優勝し、12回目の本大会出場を決めました。

試合は前半をスコアレスで折り返し、後半11分に全国高校総体でベスト4に入った昌平高校が先制しましたが、浦和南がそこから2対1と逆転勝ちを収めました。県高校総体の決勝と同じカードであり、両校とも「全国」でのリベンジを期しての試合は、浦和南が凱歌をあげました。

全国高校サッカー選手権大会・浦和南試合予定
1回戦 12月31日(月) 12時05分キックオフ
対 東福岡高校(福岡県代表) 会場：NACK5スタジアム大宮



決勝 浦和南 vs 昌平



優勝 さいたま市立浦和南高校

江南南、11年振りの優勝 ～JFA第42回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会

11月18日、埼玉スタジアム第2グラウンドにて「JFA 第42回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会」の準決勝と決勝が行われました。準決勝では江南南サッカー少年団(A)がダイナモ川越東を2対0で破り、大宮アルディージャジュニアもレジスタFC(A)を2対0と破り、それぞれ決勝に臨みました。

昨年と同じカードとなった決勝戦は白熱し、どちらが勝ってもおかしくない展開でしたが、前半に先制した江南南が1点を守り切り、1対0で11年振り6回目の優勝を決めました。本大会出場は7回目。12月26日から鹿児島県で開幕します。



優勝 江南南サッカー少年団(A)



決勝 江南南(A) vs 大宮アルディージャジュニア

座談会

少年男子、福井国体で見事優勝！

～大野恭平監督とその過程を振り返る～

9月30日から5日間開催された「福井しあわせ元気国体」にて、埼玉県選抜の少年男子が見事優勝しました。選抜チームとなってから埼玉県が優勝したのは、1990年福岡国体(千葉との同時優勝)、2001年宮城国体(静岡との同時優勝)に続いて3回目。また単独での優勝は初めてのことでした。

今回は、大野恭平監督(大宮南高校)を中心に、福田直史県技術委員長(不動岡高校)、荻野清明ユースダイレクター(浦和東高校)、大森健司県高体連技術部長(越谷総合技術高校)の皆さんに大会とこれまでを振り返っていただきます。(聞き手、荒川裕広広報委員)

常に主導権を握るサッカーをしよう

—改めておめでとうございます。お疲れ様でした。まずは大野監督から優勝までの経緯をお話いただけますか。

大野 ありがとうございます。4年前、このチームの年代が中学一年になるところで、大森さんから任命いただき、今年を見据えて県U-13トレセンのスタッフになりました。4年というスパンの中でしっかりチームを作っていこうと思って就任しました。ただ、実際のところは3種のトレセンですので、私はサポートに回り、選手たちとコミュニケーションを取ることに主眼を置いて活動していました。そこから彼らが中3になった昨年、後期から関東トレセンリーグU-15が始まるのを契機にレッズ、アルディージャの選手たちを迎えた時期でもありますが、私が監督という立場となりました。その時点で城定さん、原山さん、中村さんに関わっていただき、方向性を一つに合わせました。この方向性がしっかりしていたので、U-16へスムーズに移行できたと思います。3月に行われた「埼玉国際サッカーフェスティバル」に向けてのチームづくりの中で昌平高校など高体連の早生まれの選手も加えていいスタートを切りました。4月からはアルディージャの早生まれ組も合流し本格的にチームを作っていました。



大野恭平氏

—ありがとうございます。4年先を見るというのは難しい作業だったと思います。必ずしもスタートからいた選手たちがすべて残っているわけではありませんよね。

大野 そうです。ですから、技術的なこと戦術的なことよりも、コミュニケーションを取って彼らのパーソナリティ、精神性を見てきました。実際、15歳の後期からは、アルディージャとレッズの選手中心で構成されました。そこからは、彼らにとって一番いいサッカーをさせてあげよう、目指そうと思って指導しました。—その「一番いいサッカー」というのは、どういうサッカーだったのでしょうか。

大野 技術的に優れた選手が多く、精神性も高いものを持っていました。ですから、常に主導権を握るサッカーをしようと。ボールを持っているときはもちろん、守備においても自分たちがコントロールしようというサッカーです。とにかく、この年代は上手いです(笑)。

—なるほど。大森さん、例年に比べても、今年の選手たちのレベルは高かったということでしょうか。

大森 はい、今年は例年になくレベルの高い年でした。近年では4年前の鈴木豊さん(浦和東高校)と池田伸康さん(浦和レッズ)が率ってくれたチームもタレントが揃っていましたが、ただあのときは期待されながら、1回戦で鹿児島県に負けてしまいました。

具体的に言うと、今年はとにかくレギュラーの11人だけでなく、12人目、13人目まで有望な選手たちなんです。かつ、14人目以降の選手たちも遜色なく、また今回選ばれなかった選手でも数名はこのメンバーに入っているもおかしくありませんでした。結果、穴の無いチームになったのです。あとは特に本大会は5連戦ということもあり、選手をどう組み合わせ送り出すのが監督の判断でしたね。見ていて、サブの選手たちがチームのコンセプトはもちろん理解してくれて、その上でピッチ内、ピッチ外ともにいい雰囲気を作ってくれていました。いい16人を選んでくれたと思っています。

あと選手たちから「このチームで試合をしたい」「このメンバ

ーで戦いたい」という声が多く聞かれました。チームへの愛着は例年以上だったと思いますし、それが力になったと思いますね。

大野 U-15のトレセンリーグでレッズとアルディージャの選手が加わった中で神奈川と試合をしました。あのとき「質が高いな」と思いましたね。試合は最初に2点取って、後半4点取られて負けたのですが、関東ではもちろん、全国でもトップレベルの神奈川を相手に試合を支配していたんですね。あれは驚かされました。さらに「埼玉国際サッカーフェスティバル」で、韓国の全北現代モータースとパルメイラス(ブラジル)と十分に戦えたからね。

荻野 U-13からの持ち上がりですが、中3の夏に多くの選手が入れ替わるのが現状です。特にこの学年は、レッズは日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会でベスト4、アルディージャは高円宮杯全日本ユースサッカー選手権(U-15)大会でベスト4でしたから両チームの選手のクオリティは例年以上に高かったですね。

一体感が欲しかった

—最初から優勝も想定できたチームだったのでしょうか。

荻野 簡単な世界ではないですよ(苦笑)。それも、今回はチームスタッフには非常にプレッシャーがかかっていたと思います。ただ、終わってみたら、どの試合も「横綱相撲」で終わったということでしょうか。私から見ると、とにかくチームが一つになったというのが勝因だったと思います。

大森 例年から思うと、大人たちから子供たちを見て「まだまだだな」と思うときは、結果が出ていませんでした。実際、この3年間は本大会へ行っていませんでした。能力はあるのですから「もっとサッカーに専念してほしい」と思っている、子供じみた行動が目につくことがありました。そういうのが無かったですね、今年のチームは。



大森健司氏

大野 昨年、為谷監督(洋介氏・成徳深谷高校)の下でアシスタントコーチとして関東ブロック大会などに帯同していましたが、気になったことがありました。平日の県トレセンの練習で集まる際に、選手たちがそれぞれのチームのジャージ、シャツを着ていたんです。バラバラでした。もともと用意されていなかったから仕方ないのですが、私が監督になる際、福田さんをお願いして練習用のウェアを揃えてもらいました。どうしても、チームとしての一体感が欲しかったんですよ。

大森 県トレセン活動初日の練習に顔を出したら、びっくりしましたよ(笑)。みんなお揃いでしたから。予算は無いはずだったのですが……。毎回回収していましたが、統一感があってよかったですね。雰囲気づくりはよかったですよ。

大野 やりたいことをやらせていただきました。ありがとうございました(苦笑)。ただ選手には、このチームに対して責任と誇りを持って欲しかったんです。県トレセンに来たら自チームではなく、このチームに。結果的には、これがよかったと思っています。—チームの戦い方についてはいかがだったですか。

福田 チームの立ち上げはよかったですね。「埼玉国際サッカーフェスティバル」はよかったです。

荻野 あのパルメイラスを相手にガチンコの勝負ができたのは素晴らしいです。逆転しましたが、逆転されました(笑)。でも、

ああいう経験ができたのはよかったですね。

大森 県のスポーツ振興課の皆さんが頑張ってくれました。だから「強化」の試合ができたのです。

大野 トレセンリーグを戦いながら、ゴールデンウィークには岐阜へ遠征に、関東ブロック大会前には千葉で合宿し、本大会は1週間前に石川県に入って合宿しましたね。

荻野 1週間前に開催地の隣の県に入って合宿なんて、ワールドカップの出場国みたいですよ(笑)。石川のスタッフの皆さんには「石川で始めて石川で終わったね」と言われました。

大野 石川とは岐阜での遠征でも一緒でしたからね。

大森 今までの直前合宿は県内で行っていました。それもある意味「日常」ですよ。それが、石川に入ったことで「非日常」になったんです。そこでやることで選手一人ひとりスイッチが入ったと思っています。

大野 結果的に10泊11日でしたね(笑)。

大森 長く関わってきましたが、今までと違う発想で提案されて「なるほどね」と感心しました。来年もこういう形でやっていきたいと思います。

福田 それにしても関わった大人が10人もいましたね。大森さんや荻野さんには次の対戦チームのスカウティングをお願いしましたし、今回は自分たちの試合のビデオも撮って編集してもらいました。

大森 今のスタッフにはチームに専念してもらえるようにしました。今年からチーム付きとなった武田さんもよくやってくれましたね。

荻野 スタッフの役割分担は素晴らしかったと思います。一人ひとりが機能的に動いていました。ユースダイレクターという役割上、2種、3種、4種の県や地区のトレセンを視察に行くことがあります。ヘッドコーチ以外のコーチたちの選手への関わりが薄いケースも見受けられます。トレセンというのは、集まってきてくれた一人ひとりの選手たちを育てるのが目的です。関わっているスタッフ全員が選手たちに関わっていかねばなりません。そう思っていただけに、今回は全員がいい働きをしていたように見えました。本大会のときには翌日のタイムスケジュールを毎日作成していましたが、それが分刻み(笑)。とにかく細かい。「細心の注意を払って準備して臨機応変に対応する」というピッチ内と同じことをチームスタッフが実行していました。みんながみんな、ストイックになって「チームのために」動いていたと思います。



荻野清明氏

すべては選手たちのために

大野 その中でも城定さんのマネジメント力には驚かされました。「すべて想定内にしよう」と考えられるすべてを想定して準備しようと言われました。例えば先制点を奪われて、コーチたちが慌てたら、ピッチの中の選手たちにも影響しますからね。「すべては選手たちのために」なんです。だから、すべて用意されているプロと同じように選手たちをマネジメントしていこうという話になりました。また、中村さんの分析力にも助けられました。試合後には次の試合に向けた選手に見せる映像を作ってくれました。

ただ、それだけではなく選手たちも私たちの準備の大変さを理解してくれて、それに応えようと結果を出してくれたのです。

大森 「そこまでいたれりつくせりにしてどうなんだ？」という声も無かったわけではありません。補食を与えることなどしましたが、時代が変わってきているということです。それに、今、大野監督からもありましたが「当たり前」と思っていた選手はいませんでしたね。

以前ならば、出された食事でも「食べられない」という選手がいました。選手たちは食べるのも仕事。今回の選手たちは必死になって食べていました。合宿で使った部屋もきれいにしていましたし、朝6時からの散歩にも遅れることなく、中には一度温泉に入って体を温めてから集まってきた選手もいましたね。自分たちを律していました。

荻野 選手たちは「これに応えなきゃいけない」と言っていましたね。

大森 キャプテンはGKの久保でしたが、真面目さをしっかり出してくれましたね。

大野 オンとオフの切り替えがしっかりできていましたね。普段は仲が良くリラックスして過ごしていましたが、ピッチに立ったらスイッチが切り替わる選手たちでした。オフの過ごし方も意識が高く選手たちの人間性がよかったですね。ですから、選手たち、スタッフの皆さん、またここにいらっしゃる皆さんに恵まれました。各チームの皆さんもそうです。とにかくコミュニケーションを取ることを考えていましたね。

—大野監督も自チーム(大宮南高校)がある中で大変だったのではないのでしょうか。

大野 正直、この半年は自分のチームを見るよりも、県トレセンの選手の練習や試合を見に行くことのほうが多かったかもしれません(笑)。それができたのも、顧問の田中先生(龍太郎氏・2種委員長)はじめ、大宮南のスタッフの理解があったことです。様々なアドバイスをいただきました。

—さて、本大会での話を聞かせてください。優勝に向けてターニングポイントとなった試合、瞬間というのはどこにあったのでしょうか。

大野 この3年、本大会に出場していませんでしたから、埼玉県としてどうなるのかという経験がありませんでした。ですから、ある意味1回戦がすべて。選手たちには「この試合に集中しろ」と言って送り出しました。山形に勝ったことで、先が見えてきたと思いますね。

福田 組み合わせを見たとき、「いいな」と思いましたね。国体の少年男子がU-16になってから、優勝したのは関東、関西が多い中「一つ勝てば」という思いは我々にもありました。

荻野 昨年、埼玉県は出場できませんでしたが、開催地の愛媛に大野監督と二人で行って来ました。ちょうど、以前国体の監督とコーチという関係にもなった渡辺さん(隆正氏・FC今治)がいてくれたので、道案内をお願いしてですね。全国で神奈川がどう戦うのかを観たり、埼玉を破った群馬が広島に敗れた試合を観たり……。本大会はこのクオリティなんだということを感じることができたと思います。

大野 愛媛での国体を見て、優勝したくなりましたね……。私も高校時代(浦和市立)、国体のメンバーに選ばれて広島国体に出場しましたが、初戦で、0対2で負けたんですよ。なので勝ち上がっていく経験はしていません。それが昨年の愛媛で地元の子供たちの応援があったり、いろいろな皆さんが大会運営に携わり、そしてJFAのスタッフも見ているのがわかり、選手たちに「これはいい経験になる。誰かが見てくれているだけでチャンスは広がる」という話をしたものです。

荻野 これはこれまでの監督になった皆さんには申し訳なかったのですが、やはり本大会の、それも上位のチームがどのように戦っているかというイメージがわかるのは大きいですね。この3年、関東ブロック大会で終わってしまっていたので、スタッフも「本大会で勝ち進む絵」が描けなかったということはあったかもしれません。

大森 その「観る」という発想が大事ですね。荻野さんがユースダイレクターに就任する以前にアドバイスをいただき、県内4地区のトレセンスタッフには関東トレセンリーグを観るよう働きかけてきました。また、県トレセンの練習も観てほしいと言っていました。なかなか(苦笑)。そうそう、千葉県は出場してない大会でもスタッフが10人も視察に行きますからね。埼玉でも一人で何役もするのではなく、細分化できるようにになりましたから、やはりスタッフと一緒に「観る」ということが必要です。

福田 城定さんは、千葉県選抜の一員として優勝しているんですよ。千葉県の意識の高さを見習いながら、こういうことをどう繋げていくかは課題ですね。

—なるほど。さて、少しスタッフにスポットを当てたいと思いますが、スタッフの選出についてポイントはあったのでしょうか。

大森 例年、レッズさんかアルディージャさんからスタッフを出していただく中で、今回はレッズさんから城定さんでした。GK



福田直史氏

コーチはGKプロジェクトからの選出で、3種のスタッフは持ち上がりで、田淵さんは来年の監督としてですから、大野監督が取って選んだのは、山下さんだけですね。

この山下さんも“一本釣り”ではなく、2種技術委員会として挙げている次期監督候補から選んでもらいました。

大野 山下さんとは、さいたまSCで一緒にずっとプレーしていたので、お願いしました。気づいたら、このメンバーの中で自然と役割分担ができたんです。このメンバーで「選手を第一に」という考えを持って、それこそできることはすべて行ったから優勝できたと思いますね。

福田 確かに新たな取り組みを含めて、やれることは大野監督を中心にやってくれたと思います。ただ選手たちは16歳で、やはり試合をしてみなければわかりません。改めてですが、やはり関東ブロック大会を突破することが大変です。力があっても、試合で先制されれば厳しい展開になります。今年の関東ブロック大会では群馬に対して、しっかり先制点を取って勝ち抜いたことが、本大会での優勝に繋がったと思います。

このチームで優勝したかった

—そこで、改めて勝因はなんだったのでしょうか。

大野 すべてに対して選手、スタッフ全員が同じ方向を向いて、最大限の力を発揮できたからだと思います。試合後、選手たちには「おめでとう。ありがとう。次は世界へ」という話をしました。

荻野 大会を振り返ると、先ほども言った通り最後まで“横綱相撲”であり、常に主導権を握っていましたが、3回戦の福島県との試合では後半立ち上がりの15分がバタバタしてしまいました。これが2試合目だった福島に対して、こちらは3試合目。疲れが出てしまいました。この苦しい展開で、大野監督は選手交代で乗り切ったんですよ。こういう場面で出て仕事のできる12番目以降の選手の力が素晴らしく、かつ大野監督の采配も冴えていました。

大野 あの試合は力関係では上だと思っていましたが、確かに3試合目で、かつ福島は変則的なシステムで挑んできました。正直難しい試合でしたが、選手交代を含めて乗り切れました。

荻野 そういう意味では、大野監督は「自分らしく」やってくれたと思います。交代の交代なんて、簡単にはできないですよ。また、城定さんからアドバイスをもらっていた中で、選手に対する指示はすべて大野監督から伝えていたのも、よかったと思いますね。

あとGK。2人ともスーパーでした。それでもこういう大会ではレギュラーを決めたら、変えないのがセオリー。それを試合に

よって使い分けただけじゃないですか。それもですよ、それぞれが出た試合でスーパープレーを見せてくれました。

大森 GKの選択は素晴らしかったですね。

荻野 選手たちのクオリティも文句なしでしたが、監督の采配も素晴らしかった。どの試合後も私からは「采配が素晴らしかったね」でしたから。

—話が尽きませんね。これも優勝できたからでしょうか。例年と違いますね(笑)。最後に大野監督にまとめていただいてもよろしいですか。

大野 最後に、采配のことを褒めていただきましたが、選手としては試合に出られないことや交代させられることって、悔しいものですし、イヤなものです。それがわかっているだけに、私自身、毎試合悩みました。しかし、このチームでなんとか優勝したかったです。コーチ陣にも助けしてもらいましたが、やはり選手たちに助けられました。悔しい思いをした選手もいたと思いますが、そういうことを見せなかった選手たちに感謝します。だから、優勝できたと思いますし、この優勝を全員で喜び合えたのだと思います。本当にありがとうございました。

—こちらこそありがとうございました。技術委員会として、この結果を来年以降にもつなげていく活動をお願いします。

1回戦	山形県 1 - 2 埼玉県
	得点者: 20分松村、67分須藤
2回戦	岐阜県 0 - 3 埼玉県
	得点者: 20分中山、55分盛、58分須藤
準々決勝	埼玉県 2 - 1 福島県
	得点者: 17分中山、70+3分須藤
準決勝	千葉県 1 - 3 埼玉県
	得点者: 65分須藤、68分柴山、70+5分中山
決勝	埼玉県 1 - 0 石川県
	得点者: 51分大澤



埼玉県少年男子



決勝 埼玉県 vs 石川県



準々決勝 埼玉県 vs 福島県



1回戦 埼玉県 vs 山形県

スタッフ

監督	大野 恭平 (大宮南高校)
コーチ	城定 信次 (浦和レッズ)
コーチ	山下 暁之 (朝霞西高校)
GKコーチ	中村 和彬 (栗橋北彩高校)
コーチ	原山 裕輔 (入間市立藤沢中学校)
県技術委員長	福田 直史 (不動岡高校)
ユースダイレクター	荻野 清明 (浦和東高校)
2種技術委員長	大森 健司 (越谷総合高校)
コーチ	田淵 常夫 (熊谷高校)
ワーキング	武田 直樹 (栄北高校)

選手

No.	位置	名前	チーム名
1	GK	久保 賢也	大宮アルディージャユース
2	DF	田中 颯太	大宮アルディージャユース
3	DF	村上 陽介	大宮アルディージャユース
4	DF	中山 昂大	大宮アルディージャユース
5	DF	佐藤 優斗	浦和レッドダイヤモンズユース
6	MF	谷口 大晟	大宮アルディージャユース
7	MF	柴山 昌也	大宮アルディージャユース
8	MF	盛 嘉伊人	浦和レッドダイヤモンズユース
9	MF	松村 大也	浦和レッドダイヤモンズユース
10	FW	堀井 真海	浦和レッドダイヤモンズユース
11	MF	須藤 直輝	昌平高校
12	GK	ジョーンズレイ	大宮アルディージャユース
13	DF	山田 結斗	大宮アルディージャユース
14	MF	木下 翼	浦和レッドダイヤモンズユース
15	FW	山内 太陽	昌平高校
16	FW	大澤 朋也	大宮アルディージャユース

写真提供 / (公財)埼玉県体育協会

大会記録 ● 県内大会

1種

2018年度埼玉県社会人サッカーリーグ 1部

●全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	TIU	49	16	1	1	54
2	ACアルマレッザ入間	41	13	2	3	38
3	大成シティFC坂戸	39	12	3	3	24
4	ドリームス	33	10	3	5	28
5	与野蹴魂会	29	9	2	7	-3
6	クマガヤFC	23	7	2	9	-12
7	パイオニア川越	14	4	2	12	-39
8	大里FC	12	3	3	12	-39
9	越谷FC	10	3	1	14	-23
10	FC西武台	10	3	1	14	-34

2018年度 第51回埼玉県大学サッカーリーグ戦 1部・後期

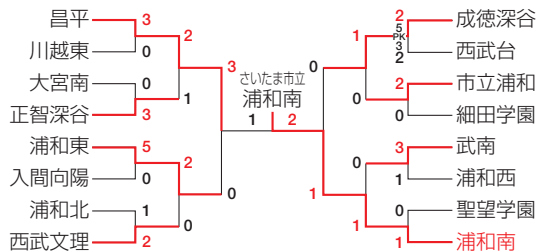
●全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失差
1	尚美学園大学	35	11	2	1	57	10	47
2	平成国際大学	32	10	2	2	47	16	31
3	城西大学	31	9	4	1	46	9	37
4	埼玉工業大学	19	6	1	7	23	28	-5
5	獨協大学	17	5	2	7	28	29	-1
6	文教大学	15	5	0	9	30	35	-5
7	埼玉大学	10	3	1	10	20	44	-24
8	芝浦工業大学	3	1	0	13	10	95	-85

2種・高体連

平成30年度第97回全国高等学校サッカー選手権大会 兼 埼玉県高校選手権 決勝トーナメント

10月13日～11月18日 埼玉スタジアム他



※優勝した浦和南は本大会へ出場



決勝 浦和南 vs 昌平

3種

高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ 2018 埼玉

●全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	FC LAVIDA	43	13	4	1	41
2	クラブ与野	42	13	3	2	31
3	CAアレグレ	29	8	5	5	15
4	FC深谷	28	8	4	6	-5
5	坂戸ディプロマッツ	25	7	4	7	3
6	FCコルージャ	19	5	4	9	0
7	東松山ベレーニア	18	4	6	8	-11
8	1FC川越水上公園	18	4	6	8	-20
9	HAN FC	14	4	2	12	-15
10	武南ジュニア	14	4	2	12	-39

高円宮杯第30回全日本ユース(U-15)サッカー選手権埼玉県予選大会

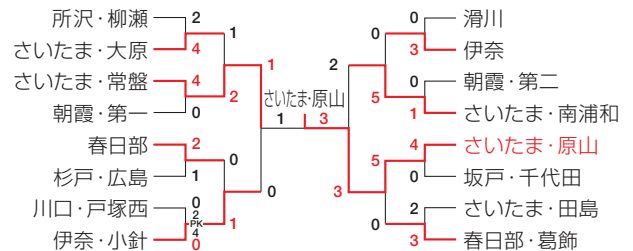
8月25日～9月24日

●代表決定戦

- 【第1代表】 FC LAVIDA
FC LAVIDA 4-0 プレジールSC入間
- 【第2代表】 クラブ与野
クラブ与野 5-2 FC FESTA
- 【第3代表】 CAアレグレ
CAアレグレ 1-0 カムイJr
- 【第4代表】 東松山ベレーニア
FC 深谷 2-4 東松山ベレーニア
- 【第5代表】 FELEZA FC
FELEZA FC 2-1 武南 Jr
- 【第6代表】 坂戸ディプロマッツ
FC-CORUJA 2-4 坂戸ディプロマッツ

平成30年度新人大会 兼 第31回県民総合体育大会 兼 第28回テレビ埼玉旗争奪サッカー大会

11月8日～18日 埼玉スタジアム他



※優勝はさいたま市立原山中学校(初優勝)



優勝 さいたま市立原山中学校

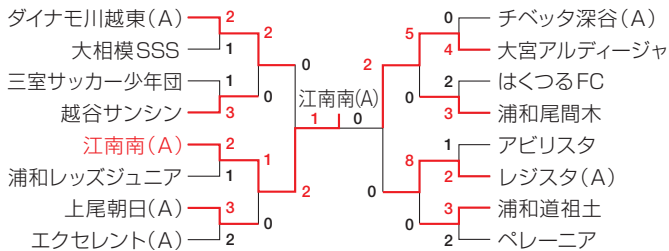


決勝 原山中 vs 常盤中

4種

JFA 第42回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会

10月21日～11月18日 埼玉スタジアム第2グラウンド他



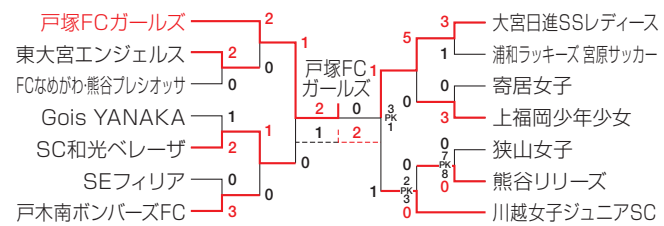
※優勝した江西南は本大会へ出場



決勝 江西南(A) vs 大宮アルディージャ

第30回埼玉県少女サッカー大会

11月11日、17日 大島新田サッカー場他



※優勝した戸塚 FC ガールズ、準優勝の大宮日進、第3位の川越女子ジュニア、第4位の和光ベレーザは8都県少女サッカー大会に出場

女子

平成30年度高等学校女子サッカー選手権大会

9月1日～24日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

●決勝リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	花咲徳栄高校	9	3	0	0	+10
2	南稜高校	6	2	0	1	+2
3	本庄第一高校	3	1	0	2	±0
4	浦和西高校	0	0	0	3	-12



花咲徳栄 vs 南稜



本庄第一 vs 浦和西

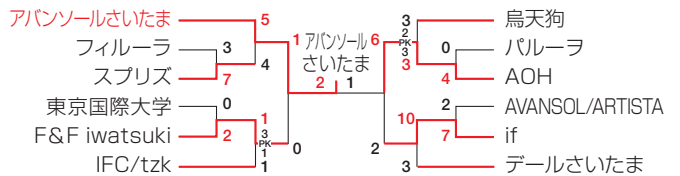


優勝 花咲徳栄高校

フットサル

JFA 第24回全日本フットサル選手権大会埼玉県大会

9月15日～11月24日 庄和体育館他



※優勝したアバンソールさいたまは本大会へ出場

大会記録 ● 県外大会

1種

天皇杯JFA第98回全日本サッカー選手権大会

10月24日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

●準々決勝 浦和レッズ 2-0 サガン鳥栖

12月5日 茨城県立カシマサッカースタジアム

●準決勝 鹿島アントラーズ 0-1 浦和レッズ

12月9日 埼玉スタジアム2002

●決勝 浦和レッズ 1-0 ベガルタ仙台

第46回関東自治体職員サッカー選手権大会

10月27日～30日 浦和駒場スタジアム他

1回戦 川口市役所 2-1 八王子市役所

2回戦 川口市役所 1-2 藤沢市役所

山梨県庁 0-1 春日部市役所

栃木県庁 0-2 さいたま市役所

準決勝 藤沢市役所 4-0 春日部市役所

鎌倉市役所 1-2 さいたま市役所

決勝 藤沢市役所 0-1 さいたま市役所

3位決定戦 春日部市役所 0-0 鎌倉市役所 (2PK4)

※優勝はさいたま市役所



決勝 さいたま市役所 vs 藤沢市役所



3位決定戦 春日部市役所 vs 鎌倉市役所

第52回関東社会人サッカー大会

11月2日～18日 東京都内各地

1回戦	南葛SC	2-0	与野蹴魂会
	Tokyo International University	1-0	八王子FC
	品川CC横浜	3-1	大成シティFC坂戸
	ガスバ草津チャレンジャーズ	1-1	ACアルマレッザ入間 (3PK2)
2回戦	足利御厨UNITED	1-1	Tokyo International University (6PK5)

※優勝した Criacao Shinjuku と準優勝の東邦チタニウム(株)サッカー部が関東2部へ昇格

第25回全国クラブチームサッカー選手権大会

12月1日～4日 宇和島市丸山公園陸上競技場他

1回戦	久枝フットボールクラブ	1-2	アヴェントゥーラ川口
2回戦	フットボールクラブ柳町	0-2	アヴェントゥーラ川口
準決勝	FC宇和島	1-3	アヴェントゥーラ川口
決勝	アヴェントゥーラ川口	1-2	パナソニック岡山サッカー部



準優勝 アヴェントゥーラ川口

JR東日本カップ2018 第92回関東大学サッカーリーグ戦1部 ●全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	引分	負	得失点差
11	東京国際大学	18	4	6	12	-21

※東京国際大学は2部降格が決定しました

平成30年度第51回関東大学サッカー大会

10月28日～11月11日 埼玉県内各地

Bグループ

尚美学園大学	1-6	産業能率大学
尚美学園大学	2-1	作新学院大学
尚美学園大学	1-2	日本大学

※尚美学園大学はグループ3位で敗退。産業能率大学と日本大学が関東2部へ昇格

2種

2018 Jユースカップ 第26回Jリーグユース選手権大会

10月13日～11月18日 ミクニワールドスタジアム北九州他

1回戦	大宮アルディージャユース	2-1	カマタマーレ讃岐U-18
2回戦	サンフレッチェ広島ユース	1-0	大宮アルディージャユース
	浦和レッズユース	1-2	コンサドーレ札幌U-18

※優勝は横浜F・マリノスユース

3種

高円宮杯JFA第30回全日本U-15サッカー選手権大会関東大会

11月3日～11日 関東各地

Aブロック

1回戦	坂戸ディプロマッツ	1-4	ヴァンフォーレ甲府
	クマガヤSC	2-3	WingsU-15
	クラブ与野	0-4	大宮アルディージャ
準々決勝	WingsU-15	1-0	大宮アルディージャ

※横浜F・マリノスジュニアユースが会場

Bブロック

1回戦	CAアレグレ	3-0	前橋FC
	鹿島アントラーズつくば	3-0	FC LAVIDA
	GRANDE FC	1-1	FOURWINDS (4PK3)
準々決勝	横浜F・マリノス追浜	3-0	CAアレグレ
	GRANDE FC	3-2	鹿島アントラーズ

※川崎フロンターレが会場

Cブロック

1回戦	三菱養和SC巣鴨	5-1	東松山ベレーニア
-----	----------	-----	----------

※湘南ベルマーレが会場

女子

第40回関東女子サッカー選手権大会 兼

皇后杯JFA第40回全日本女子サッカー選手権大会関東地区予選

9月15日～29日 北区赤羽スポーツの森公園競技場他

2回戦	東洋大学	1-2	大東文化大学
	帝京平成大学	2-0	浦和レッズユース
準々決勝	大東文化大学	2-1	帝京平成大学
準決勝	早稲田大学	2-1	大東文化大学

※優勝は早稲田大学。大東文化大学は3位で本大会に出場する

皇后杯 JFA第40回全日本女子サッカー選手権大会

11月3日～1月1日

1回戦	JFAアカデミー福島	1-0	ちふれASエルフェン埼玉
	北海道大谷室蘭高校	1-4	大東文化大学
2回戦	オルカ鴨川FC	6-1	大東文化大学
	浦和レッズレディース	5-1	パニース京都SC
3回戦	ニッパツ横浜FCシーガルズ	0-2	浦和レッズレディース

第14回関東高校女子サッカー秋季大会

10月27日～11月4日 私学事業団総合運動場他

1回戦	本庄第一高校	5-0	宇都宮中央女子高校
	宇都宮短期大学付属高校	0-3	浦和西高校
2回戦	村田女子高校	1-2	本庄第一高校
	浦和西高校	0-0	幕張総合高校 (3PK5)
準決勝	本庄第一高校	3-0	太田女子高校
決勝	本庄第一高校	3-1	幕張総合高校 (延長)

※本庄第一高校が優勝

第27回関東高等学校女子サッカー選手権大会

11月10日～18日 浦和駒場スタジアム他

1回戦	花咲徳栄	4-3	湘南学院
	南稜	1-6	星槎国際湘南
準々決勝	花咲徳栄	2-1	日本航空
準決勝	十文字	2-1	花咲徳栄
3位決定戦	花咲徳栄	0-1	星槎国際湘南

※優勝は修徳。花咲徳栄は4位で本大会出場



1回戦 花咲徳栄 vs 湘南学院



1回戦 南稜 vs 星槎国際湘南



準々決勝 花咲徳栄 vs 日本航空



4位 花咲徳栄高校

シニア

JFA第6回全日本O-40サッカー大会

11月3日～5日 ゼットエーオリピスタジアム他

グループC	FC西武台シニア	2 - 0	羅針盤倶楽部NAGOYA
	盛岡FCマスターズ	2 - 1	FC西武台シニア
	兵庫SC	3 - 0	FC西武台シニア

※FC西武台シニアはグループリーグ4位

JFA第13回O-70サッカーオープン大会関東予選会 兼 第6回関東シニアサッカー選手権大会O-70

11月17日、18日 コーエイ前橋フットボールセンター

B組	埼玉シニア70	0 - 2	アスレチッククラブちば
	埼玉シニア70	4 - 1	栃木大昭サッカークラブ
	埼玉シニア70	0 - 1	山梨シニア70

※埼玉シニア70はグループ3位

順位決定戦	茨城シニア70	0 - 0	埼玉シニア70
		(5PK6)	

※埼玉シニア70は5位

インフォメーション

●メキシコオリンピック50周年記念パーティー開催

1968年のメキシコ五輪で銅メダルを獲得して50年。その偉業を讃えるパーティーが10月21日、ザ・プリンス パークタワー東京で開催されました。約300名の出席者が横山謙三氏、鈴木良三氏を含む9名のレジェンドを称え、2020年東京五輪チームを率いる森保一・日本代表監督にエールを送る祝宴となりました。



メキシコ五輪銅メダル獲得のレジェンド

●平成30年度埼玉県GKキャンプ実施報告

平成30年12月2日(日)埼玉スタジアム2002第4グラウンドにて埼玉県GKキャンプを実施しました。県内U-14、U-13を対象に、県・地区トレセン、各地区で行われているGKトレーニング参加者の中からセレクトされた選手がトレーニングを行い、U-14、U-13それぞれ19名の選手が参加しました。指導は県GKプロジェクトの指導者9名が担当し、メインコーチとしてU-14は県U-14トレセンGKコーチの小川圭輔氏(山村国際高)、U-13は県U-13トレセンGKコーチの小川駿氏(南稜高)がトレーニングにあたりました。開会行事では今年度の福井国体で優勝を飾った少年男子GKコーチの中村和彬氏(栗橋北彩高)から大会や選手たちのU-13・14当時の様子などを話していただきました。

トレーニングではU-14がブレイクアウェイ(スペースを守る)をU-13ではシュートストップをテーマに行いました。どの選手も積極的に取り組み、他の選手にも声を掛けてトレーニングを盛り上げるといったリーダーシップを発揮する選手や素早い移動からボールを奪ったり、ダイナミックなダイビングでシュートストップしたりとそれぞれの選手が自分の特徴を良く出していました。また、どちらの 카테고리にも180cmを超える手がいたことも特徴的でした。今後の選手たちの活躍に期待したいと思えます。

なお、このトレーニングに参加した選手の中からそれぞれのカテゴリー2名ずつ、セレクトされた選手が平成31年2月2～3日に関東GKキャンプ(静岡県時之栖)に参加することになります。報告者: 塚本卓司(埼玉県GKプロジェクト、上尾鷹の台高校)



編集後記

浦和レッズが天皇杯優勝を飾り、文字通り有終の美を飾ってくれました! さて、この一年を振り返ると記録的な酷暑が思い出されます。その夏を超え、チームに実りの秋。そして新たな一年、新しいシーズンに備える冬を迎えました。寒さ厳しい时候となりましたが、皆様ご自愛ください。来年もうぞよろしくお願ひ申し上げます。(藤田)